



令和2年8月24日(月)
練馬区立開進第四小学校
校長 河崎 晃 二

開四小だより 9月号

啐啄同時(そったくどうじ)

校長 河崎 晃 二

今年の夏も昨年と同様に連日の猛暑で、熱中症が心配されました。さらに今年は、新型コロナウイルス感染症の心配が加わり、新規感染者数も急激に増え、いつもと違った夏休みとなりました。しかし、保護者の皆様のおかげで、本日学校に元気な子供たちの姿が戻ってきました。ありがとうございます。

*

「啐啄同時(そったくどうじ)」これは、私が以前研究会でご指導をいた講師の先生から教えていただいた言葉です。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、卵の中の雛鳥が生まれ出ようとする時、内側から殻をコツコツとつつくことを「啐(そつ)」、ちょうどその時、親鳥が外側から殻をつつくことを「啄(たく)」といい、両方が一致して雛が生まれる「機を得て両者相応じる得難い好機」のことを「啐啄同時」と言うそうです。

親鳥が「啄」のタイミングを誤ると、中の雛鳥の命は危うくなります。早くてもいけない、遅くてもいけない、「啐」と「啄」は「同時」でなければならぬのです。この雛鳥と親鳥の関係は、子供と保護者・教師の関係にも当てはまるのではないのでしょうか。

子供を教育する時、ほめたり、叱ったりすることは、どちらも欠かせません。しかし、そのタイミングを逸したり、間違えたりすると、教育効果は薄く、かえって子供を傷つけたり、大人への不信感を募らせたりすることもあります。子供は、ほめられるべき時にほめられ、叱られるべき時に叱られることによって成長します。まさしく「啐啄同時」が大切なのです。

私たち大人が、深い愛情をもって子供を理解することに努め、適切な指導をする時、指導される側と指導する側の気持ちが一つになり、子供は確実な成長を遂げていきます。これこそが、「啐」と「啄」が「同時」に行われている状態なのだと思います。

この時、保護者と教師の「啄」を揃えることはとても重要です。これは、両者が共に子供たちの豊かな成長を願い、人間が生きていく上で大切なことをどの子供に対しても同じように指導することを意味します。結局これが、一人一人の子供の幸せにつながるのだと私は信じています。

*

2学期は、学校公開や道徳授業地区公開講座、運動会に替わる体育発表会等を計画しています。新型コロナウイルス感染症予防のため、3密にならないようこれまでとは違った形での実施を考えています。詳しい内容につきましては後日お知らせいたしますので、ご協力をお願いいたします。